

2023 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
人間健康学部 人間健康学科	准教授	山村 伸
最終学歴	学 位	専門分野
順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 博士前期課程 修了	スポーツ 健康科学 (修士)	スポーツ心理学 バスケットボール

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画

(理念)

本学の建学の精神である「真に信頼して事を任せうる人格の育成」、校訓の「真面目」を念頭に学生ひとりひとりと向き合いながら教育活動を行う。

(目標)

本学の建学の精神である「真に信頼して事を任せうる人格の育成」、校訓の「真面目」を念頭に学生ひとりひとりと向き合いながら教育活動を行う。

(方針)

- ・可能な限り学生1人1人と向き合い、「なりうる最高の自分」になれるよう支援する。
- ・専門演習では全員卒業・全員進路決定を目指す。

(計画)

- ・演習科目、課外活動において定期的に個人面談を実施する（前学期・後学期開始時、その方が適宜実施する）。内容は単位取得、成績の把握・指導、進路指導、その他困り事等。
- ・受講生の多い講義科目においては授業前後に質問時間を設けると共に、Teams を活用し授業外での質問等に対応する。
- ・成績、単位取得だけではなく、将来社会人として必要な素養（挨拶、言葉遣い、ビジネス文章・メールの書き方等）についても指導する。

○担当科目（前期・後期）

(前期)

スポーツ心理学、保健体育教育法Ⅰ、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

(後期)

専門スポーツ実習（球技）、スポーツ実習、メンタルトレーニング演習、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ

○教育方法の実践

Teams を用いたオンデマンド授業、学生の質問対応。保健体育科教育法Ⅰにおける模擬授業の実践、模擬授業後のグループワークを通じたフィードバック。専門スポーツ実習（球技）における ICT 機器の活用シュートフォーム動画撮影の授業内でのフィードバックなど。

○作成した教科書・教材

- ・人間健康学テキスト 西尾敦史，大勝志津穂，尚爾華編著，「人間健康学」，唯学書房（2023）
- ・主に実技科目がオンデマンドになった際の課題提示（各スポーツの特性、ルールの説明、Teams を用いたクイズ形式の課題）。

○自己評価

学生指導においては、必要に応じて個人面談を実施した。2023 年度の専門演習 4 年生については、留年生 1 名の卒業は叶わなかったが、現役の学生については全員がゼミ論文の提出、卒業・進路決定をすることができた。受講人数の多い講義科目においては、対面はもとより Teams のチャット機能を用いて質問対応を実施することができた。実技科目においても、Teams を用いて振り返りシートを作成し、授業に対するフィードバックを実施することができた。実技授業の ICT 機器の使用については、スマートフォンやタブレットで動画を撮影し受講生にフィードバックすることができた。

II 研究活動

○研究課題

- ・バスケットボールにおけるゲーム分析
- ・大学生を対象とした自己効力感に関する研究
- ・「人間健康学」の執筆

○目標・計画

(目標)

学会発表

論文投稿

(計画)

東京体育学会第 14 回学会大会、日本体育・スポーツ・健康学会第 73 回大会、日本生涯スポーツ学会第 25 回大会、日本コーチング学会第 35 回大会において学会発表を実施する。

東邦学誌への投稿。

○2016 年 4 月から 2024 年 3 月の研究業績（特許等を含む）

(著書)

- ・西尾敦史，大勝志津穂，尚爾華編著，「人間健康学」，唯学書房（2023）
- ・澁谷智久編著，「新スポーツ科学概論-スポーツ・健康運動指導の必須知識-」，創成社（2019）
担当：142-144，「精神障がい者スポーツの世界」

(学術論文)

- ・山村伸，今野亮 「第 92 回東海学生バスケットボールリーグ戦におけるゲーム分析—女子 2 部・3 部リーグを対象として—」，東邦学誌，51(1)，79-84(2022)
- ・今野亮，山村伸「大学バスケットボール授業におけるスキルテストのアセスメント学習効果からのアプローチ」，明治薬科大学研究紀要人文科学・社会科学，明治薬科大学研究紀要委員会編(51)，41-48，2021
- ・山村伸，嶋原礼佳，葛原憲治，「NBA 2017-2018 シーズンにおける勝敗要因に関する研究」，東邦学誌，48(2)，51-70（2019）
- ・山村伸，「本学健康スポーツ専攻教員養成課程における保健体育科教育法体育分野の現状と課題」，武蔵丘短期大学紀要，25-1，39-53，2017

- ・山村伸, 太田あや子, 福島邦男, 「本学学生の体力水準と生活水準に関する調査—平成 28 年度健康栄養専攻女子学生を対象として—」, 武蔵丘短期大学紀要, 24, 37-39, 2016

(学会発表)

- ・山村伸, 今野亮「第 92 回東海学生バスケットボール女子下部リーグにおけるゲーム分析-アドバンススタッツを用いて-」, 日本コーチング学会 第 35 回大会 (2023)
- ・今野亮, 山村伸「大学新入生における特性的自己効力感の因子構造の検証—過去の運動部活動入部状況との関連から—」, 日本生涯スポーツ学会 第 25 回大会 (2023)
- ・今野亮, 山村伸「大学生の健康への興味が特性的自己効力感に及ぼす影響」, 日本体育・スポーツ・健康学会 第 73 回大会 (2023)
- ・今野亮, 山村伸「大学生の特性的自己効力感と健康への興味の関連」, 東京体育学会第 14 回学会大会(2023)

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況 (学内外)

○所属学会

日本体育・スポーツ・健康学会、日本生涯スポーツ学会、日本コーチング学会

○自己評価

他大学の研究者と連携し、学会発表を実施することができた。しかしながら東邦学誌への投稿が年度末になってしまった為、次年度の扱いとなってしまった。引き続き課外活動と研究活動の両立が課題である。

III 大学運営

○目標・計画

(目標)

女子バスケットボール部

- ・部員数の確保 (2023 年度入学 3~4 名予定)
- ・東海学生バスケットボールリーグ戦 1 部リーグ昇格 (最低限 2 部リーグ維持)
- ・各種大会への参加
- ・ボランティア活動

中高教職課程委員会

- ・委員としての基本的な業務
- ・保健体育科教諭の輩出
- ・担当学年 (3 年生) の指導、教職カルテ、介護等体験事前ガイダンス

学生委員会

- ・委員としての基本的な業務
- ・学期開始時のガイダンスの担当
- ・クラブ・サークル活動等、学生が充実した学生生活を送る為のサポート

(計画)

女子バスケットボール部

- ・主に東海地方（愛知、岐阜、三重、静岡）の高校生大会視察
- ・高校生との練習試合
- ・東海学生バスケットボール連盟主催の大会参加
- ・西日本大会への参加
- ・愛知県社会人リーグへの参加
- ・オープンキャンパススタッフへの部員派遣
- ・その他ボランティア活動

中高教職課程委員会

- ・現役合格が望ましいが、卒業後3年以内など計画を立てて取り組ませる。
- ・学習環境の整備、教職に関するボランティア活動などの情報提供。
- ・3年生との教職カルテのやり取り
- ・介護等体験ガイダンス（6月～7月の月曜日5限、計4回）の実施

学生委員会

- ・前学期・後学期ガイダンス時の情報周知
- ・人間健康学部新入生へのクラブ・サークル活動の情報周知

○学内委員等

中高教職課程部会、学生委員会

○自己評価

女子バスケットボール部の選手リクルートに関しては、今年度は6名の新入生を確保することができた。現在、新入生の競技レベルは全国大会常連校のベンチメンバー、県大会ベスト4～16の正選手が主であるが、更に競技レベルの高い高校生の獲得を目指したい。しかしながらそうした場合、今後、比較的競技レベルの低い入部希望者への対応が課題となる。断るのは簡単であるが、入学定員確保の観点からすると現実的ではないと考えられる。他の強化クラブについても同様のケースがあるかもしれないが、退部率の低い魅力ある部活動運営、退部＝退学とならない大学全体としてのバックアップ体制の構築が課題となる。年間のメインの大会となる東海学生バスケットボール連盟リーグ戦においては、昨年度2部に昇格し初めてのリーグ戦となった。初戦で中心選手の怪我があり、苦しい戦いを強いられたが、結果的には2部残留という最低限の目標は達成できた。ボランティア活動ではオープンキャンパスの学生補助員を派遣することができた。卒業式の準備についても微力ではあるが貢献することができた。また、今年度の卒業生1名が人間健康学部の代表として表彰され「文武両道」をモットーとして掲げる本団体にとって1つ成果が表れる形となったので、今後もその様な学生を輩出していきたい（競技レベルと学力のバランスが肝要である）。

中高教職委員会ではTeamsを用いての各種情報の発信、教職カルテのやり取り、介護等体験ガイダンスの運営など他の教職員と連携し、円滑に業務を進める事が出来た。

学生委員会においては、ガイダンスでの各種説明・注意喚起、クラブ・サークル活動の活性化について貢献できた。クラブ・サークル活動については新しく活動を始める団体もあったが、中心となる学生の卒業により既存の団体が衰退してしまうケースがあるのでこの点が課題となる。

IV 社会貢献

○目標・計画

(目標)

スポーツ心理学、バスケットボール（部）を通じた社会貢献

(計画)

- ・高大連携授業「高校生のうちに知っておきたいスポーツ心理学」
- ・本学オープンキャンパスへの女子バスケットボール部員派遣（サポートスタッフ）

○学会活動等

東京体育学会第14回学会大会、日本体育・スポーツ・健康学会第73回大会、日本生涯スポーツ学会第25回大会、日本コーチング学会第35回大会への参加・発表（ポスター）。

○地域連携・社会貢献等

- ・本学オープンキャンパスへの女子バスケットボール部員派遣（サポートスタッフ）

○自己評価

今年度は学会に参加する機会が多かった。学内業務と折り合いを付けながら今後も積極的に参加したい。バスケットボールを通じた社会貢献については、高校生との練習試合に留まったが、今後、選手獲得の観点からも合同練習やクリニックを実施していきたい。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

- ・学内外における研究会（勉強会）への参加（リモート含む）
- ・バスケットボールに関するセミナー・講習会への参加（リモート含む）

VI 総括

講義においては、3年生までノートPC必携になったことにより講義の幅が広がったように感じる。しかしながら、ICT機器の取り扱いについては自己の知識不足と覚えることも多々あったので、これからも自己研鑽に努めていきたい。研究活動においては、他大学の教員と連携し計画的に研究活動を進める事ができたが、いかに研究活動の時間を確保するかが今後も課題である。課外活動においては競技レベル、部員数共に少しずつではあるが向上・増加している。今後、それに伴い発生する課題や問題の内容が変化してくるが、基本的には「文武両道」、「応援されるチーム」を目指しブレずに活動して行きたい。

以 上